

市響

第404回 ファミリー交響楽

マエストロ山本祐ノ介の ファミリー交響楽

2018.12.9 (日)

午後2時開演

市川市文化会館大ホール

入場無料 【未就学児も入場できます】



指揮:山本祐ノ介
カスタネット:真貝裕司

本日のプログラム

第1部

*オープニング 作曲：山本直純

1978年4月から1983年3月までテレビ放送されていたクラシック音楽番組のオープニング曲です。

*交響曲第5番「運命」 作曲：ベートーヴェン


オーケストラで交響曲と言えばこの曲。第1楽章から第4楽章までの全曲をたっぷり聴いていただきます。(演奏時間35分)

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ：あの有名な出だしとそのモチーフが繰り返される曲の構成で、聴く人に何かを訴えかけてくるかのような激しい楽章です。このモチーフは全ての楽章にいろいろなパターンで現れます。どうか探してみてください。

第2楽章 アンダンテ・コン・モート：第1楽章とは真逆に歩くようにゆったりとしたテンポです。途中トランペットが高らかにファンファーレを歌い上げます。

第3楽章 アレグロ：速い3拍子の楽章。地の底から這い上がるようなイントロに続くホルンのメロディは第1楽章で聴いたモチーフで出ています。

第4楽章 アレグロ：第3楽章から切れ目なく突入するハ長調の壮大なフィナーレです。この楽章からピッコロ、トロンボーン3本、コントラファゴットが加わる厚みのあるサウンドの中、明るく力強い世界を聴かせてくれます。

 休憩 (15分)

第2部

*児童合唱

中国分小学校吹奏楽部のみなさんにオーケストラ伴奏で山本直純作品を3曲歌っていただきます。

「歌のメリーゴーランド」 作詞：保富康午

「こぶたぬきつねこ」 作詞・作曲：山本直純

「歌えバンバン」 作詞：阪田寛夫

*「カルメン・ファンタジー」カスタネットソロとオーケストラのための

作曲：藤田崇文

オーケストラや吹奏楽、器楽合奏などで使われる打楽器の「カスタネット」を独奏楽器に、オーケストラとの協演をお聴きいただけます。カスタネットのソリストは元札幌交響楽団首席ティンパニー、打楽器奏者の真貝裕司先生です。

超絶技巧のカスタネット演奏をお楽しみください。

*シンフォニック・バラード 作曲：山本直純

1983年に新日本フィルハーモニー交響楽団の委嘱により作曲された4曲からなる管弦楽作品です。

第1曲 リゾナンス：序奏ののちボサ・ノバのリズムによる主題部が演奏され、展開していきます。

第2曲 ロマンس：ゆっくりとした4拍子の主題部と中間部3拍子「マズルカ」の組み合わせで曲が進んでいきます。

第3曲 思い出：この年に放送終了になったテレビ音楽番組への追悼です。

第4曲 ダンス：本日の演奏会の冒頭で演奏したオープニング曲(のコラール)をモチーフに展開していきます。

*映画「男はつらいよ」テーマ曲 作曲：山本直純

山本直純氏は山田洋次監督ほかによる大ヒット映画作品の音楽も作曲しています。「男はつらいよ」は来年には22年ぶりに新作公開が予定されているそうで、寅さんがどうやって現れるのか楽しみです。

ここだけの話ですがどうやら本日の演奏にはオマケのアンコール曲があるようです。

大きな拍手で最後までゆっくりとお楽しみください。



山本 祐ノ介 (チェロ・指揮・作編曲) Yunosuke YAMAMOTO

両親ともに作曲家の家庭に生まれ、早くからピアノ、作曲を学ぶ。また指揮を父山本直純、靱山和明、川本統脩の各氏に師事する一方、チェロを斎藤建寛、堀江泰氏の各氏に師事。東京藝術大学を経て同大学院を修了。ハレストリングクァルテットのチェロ奏者、東京交響楽団首席チェロ奏者などを経て、現在ソロチェリスト及び、指揮者として活躍中。

指揮者としては、京都市響、東京ニューフィル、新日本フィル、日本フィル、東京シテイ・フィル、京都フィル室内合奏団等に度々招かれるほか、各地のジュニアオーケストラや市民オーケストラを指揮、特にファミリー向けのコンサートでは企画、編曲、指揮、司会をこなし好評を得ている。2002年に行われた「日韓親善チェロコンサート」では、日韓300人のチェリストによる合奏を指揮、'11年より毎年開催されている「チェロ・コンGRESS・イン・ジャパン (サントリーホール)」に於いてチェロアンサンブルを指揮し絶賛を博している。'11年に東京ニューフィルハーモニック管弦楽団常任指揮者に就任。また'14年には同オーケストラのメンバーからなる東京ニューフィル・ポップスオーケストラの設立に尽力、『寅さんクラシックコンサート』、『華麗なる映画音楽の世界』(民音主催)『名画座コンサート』(朝日新聞社主催)などの企画で音楽界に新風を巻き起こしている。'13年にはミャンマー国立交響楽団を指揮し国立放送局制作の番組に出演。同時にミャンマー国内の盲学校やヤンゴンの日本人学校でのアウトリーチ活動を行う。以後定期的に招かれ、'14年11月には同オーケストラの国立劇場での公演を指揮し大好評を博す。'15年ミャンマー国立交響楽団音楽監督兼首席指揮者に就任、わずかの間にオーケストラのレベルを飛躍的に高め、高い評価を得ている。

クラシックコンサートはもとより、アニメーションや戯曲などを含む広い分野で作、編曲、指揮、及びチェロ演奏を手がけているが、そのすべての活動に於いて、人々の心に安らぎと勇気を与えるため、心あたたまる表情豊かな音楽を追究している。



真貝 裕司 (元札幌交響楽団首席ティンパニー・打楽器奏者、日本カスタネット協会会長) Yuji SHINGAI

1951年 新潟県長岡市生まれ。6才の時に北海道室蘭市に転居。

1973年 武蔵野音楽大学音楽学部器楽科(打楽器専攻)卒業。卒業と同時に札幌交響楽団に入団。

1990年 札幌交響楽団首席ティンパニー・打楽器奏者となる。(2005年まで15年間首席を勤める。)

1999年～2009年まで北海道教育大学札幌校・岩見沢校の非常勤講師を勤め、打楽器専攻科の基礎を作る。

2010年9月 NHK教育テレビのヒミツのちからんどに「ミスターカスタネット」役で出演し、超絶技巧を披露(全国放送)。

2011年2月 札幌交響楽団を定年退職。

2011年3月 札幌コンサートホールKitara小ホールに於いて札幌交響楽団定年退職記念・日本カスタネット協会創立10周年記念リサイタル“真貝裕司「超絶技巧のカスタネット&打楽器の夕べ」”を開催し、絶賛を博す。

2013年 カスタネットの女王ルセナ・テロよりプロとして世界初の本格的なカスタネット・レッスンを受け賞賛される。

日本初のカスタネット奏者として、これまでに北海道、東北、東京、大阪、名古屋、福岡など全国各地で数多くのコンサートやレクチャーを開催し、大好評を得ている。

ティンパニー・打楽器奏者として、ソロ、アンサンブル、オーケストラで数多くの演奏会に出演。また、各地のアマチュア・オーケストラや吹奏楽団での後進の指導にも幅広く活躍。小林美隆、市岡史郎、吉岡幹雄、高橋美智子の各氏に師事。

元札幌交響楽団首席ティンパニー・打楽器奏者。北翔大学非常勤講師。北海道打楽器協会理事長、全日本打楽器連盟理事。日本カスタネット協会会長・カスタネット奏者。プレイウッド・アドヴァイザー。打楽器アンサンブル“coup de baguette”、北翔大学打楽器アンサンブル“ANIMO”、打楽器アンサンブル“Esperanza”音楽監督。

ホームページ 「カスタネットワールド」 <http://www5c.biglobe.ne.jp/~castanet/>



藤田 崇文 (作曲) Takafumi FUJITA

作曲家、音楽プロデューサー／東京音楽大学 作曲研究科修了。1800回を超えるコンサートへ出演。350曲を超える作編曲は、著名アーティストをはじめ、ザルツブルク・モーツァルテウム管、プラハ響、東京フィル、日本フィル、神奈川フィル、札幌響、仙台フィル、名古屋フィル等が演奏。

音楽活動の傍ら、2012年には和光市民文化センター 館長、2014年には東京音楽大学 学長特任補(作曲指揮)へ招聘されるなど音楽の多方面で活動。TV 音楽番組監修他、メディアへの出演も多数。故郷・北海道帯広には、作曲楽譜「光と風の大地」銅板記念碑が建立されている。

最新CD、藤田崇文指揮&札幌交響楽団「伊福部昭トリビュート春の音楽祭」を2018年8月にCDリリースし、クラシックCD部門(TOWER RECORDS、Amazon 共に)売上げ第1位を記録。レコード芸術特選盤と優秀録音盤にもダブル選出された。ベビシユタイン ジャパン コンサートプロデューサー、北海道とかち観光大使。

【official WEB】 <http://www.sowbun.com>



和田 英恵 (司会 市川交響楽団団員・打楽器) Hanae WADA

市川市立百合台小学校、同第三中学校、国府台女子学院高等部英語科を卒業した市川育ち。

桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科(音楽学専攻)を卒業。

中学校・高等学校教諭一種免許状(音楽)、及び国家試験にて保育士資格を取得。

ブライダル業界での現場勤務の経験を活かし、市響室内楽コンサート、「行徳・親子コンサート」、江戸川区立船堀幼稚園コンサートなどで司会を担当。

本日の出演者

【コンサートミストレス】

立田 祥子

【第1ヴァイオリン】

石崎 俊信

大橋 一郎

大橋 かおる

金田 みどり

菅原 夕

佐分利 幸江

秦 一宜

早川 貴子

久田 しげ子

渡辺 綱介

【第2ヴァイオリン】

岩田 徳子

皆合 愛子

亀井 玲子

佐藤 薫

滝澤 葉子

富田 八江子

中野 さゆり

服部 恵子

細貝 春

溝田 範子

武藤 敦子

山本 芳功

吉岡 一郎

【ヴィオラ】

石本 恵理

内田 綾美

園田 陽子

谷口 善樹

奈良林 弘子

葉山 香里

星 乗昭

【チェロ】

岩田 啓子

倉澤 倫子

後藤 庸一

中村 公一

中元 悦治

日澤 優

平得 裕子

福原 耕二

【コントラバス】

池田 和正

神代 順子

上山 優子

小林 真弓

高間 友明

番場 仙嘉

村上 信乃

【フルート】

木村 眞諭紀

佐藤 洋行

番場 ますみ

二木 陽子

【オーボエ】

白木 広美

二村 直子

古澤 恵子

本間 広樹

【クラリネット】

秋永 直美

井垣 貴嗣

時田 雄

半藤 嗣人

八木 良子

【ファゴット】

井垣 葉子

遠藤 由紀子

金坂 哲

山内 静

【ホルン】

井村 公子

近藤 利昭

嶋村 恒夫

武井 綾香

鳥山 雅史

林田 朋子

山内 正晴

【トランペット】

太田瀬 亮

関 良馬

田崎 真二

丹羽 颯

【トロンボーン】

石黒 弘道

藤平 一仁

吉川 昌憲

【チューバ】

渡邊 鉄雅

【打楽器】

佐藤 美穂子

鈴木 充

田中 康信

都筑 裕

和田 英恵

【ピアノ・チェレスタ】

伊藤 亜紀

【ハープ】

大木 理恵

真貝裕司のカスタネット入門

カスタネットといえば『フラメンコ・カスタネット』。オーケストラの打楽器奏者はこの『フラメンコ・カスタネット』の奏法を身につけることによって、また一つの新しい世界が広がります。私自身も、オーケストラの中でいろいろな曲のカスタネットパートを演奏しましたが、独特のリズム感、フィーリング、音色、細かいニュアンス等を表現するにはフラメンコ奏法が一番優れていると思いました。また、『フラメンコ・カスタネット』を練習する事は打楽器の上達にも役立ちます。特に左手の強化や指を鍛えるには最適です。



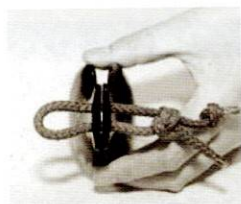
それでは皆さん、まず『フラメンコ・カスタネット』の基本をしっかりとマスターし、それからカスタネットの女王『ルセロ・テナ』のようにソロへと発展して行きましょう。

カスタネットの左右カスタネットは『低音』と『高音』で一組になっています。つまり左右の手に付ける二つのカスタネットの間には、音の高低があるのです。スペインでは『低音カスタネット』(カスタニューエラ・グラベ)を男性、『高音カスタネット』(カスタニューエラ・アグーダ)を女性とそれぞれを呼び分けています。

高音カスタネットの紐の穴の上のところに溝のような目印がつけてありますのでよく覚えておきましょう。印のある方をエンブラ(メス)と呼び少し高い音がします。印のない方をマチョ(オス)と呼び少し低い音がします。

カスタネットの取り付け方

カスタネットは『低音を左手』に『高音を右手』に取り付けます。



①それではまず、『左手』に付ける『低音』カスタネットを用意してください。カスタネットの紐をゆるめ、紐の結び目の方を手前にし、カスタネットを中心に両側に『紐の二つの輪』を作ります。



③親指の『第一関節』を中心にその両側に紐がくるようにします。



②次に紐の結び目の方から、親指にカスタネットを紐で吊るすように、紐の二つの輪の中へ親指を通して行きます。



④そして紐を締めます。

カスタネットを持つ姿勢紐はきつく締めすぎても、緩めすぎてもいけません。親指の下にピッタリとカスタネットが付き、カスタネットが開いた状態になる様にいかり結びで十分に調節し、カスタネットを落ち着かせて下さい。またその時に紐の結び目が親指の上に来るように調節してください。左手が付け終わりましたら次に『右手』に付ける『高音』カスタネットを同様に右手に付けて下さい。

カスタネットを持つ姿勢



身体全体の力を抜きなるべく自然体にしましょう。

両手の指先を向かい合わせ、手のひらを自分の身体の方に向けた形にします。

肩の力を抜き、両腕も力を抜いて『手首は軽く内側』に向けて下さい。



5本の指を使ってどのように演奏するのか、小指→薬指→中指→人差し指の順にカスタネットをひっかくような感じで連続して打つテクニックなど、続きはカスタネットワールド - BIGLOBE をご覧ください

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~castanet/>

